

Contents

下関港海岸

7工区（黒門地区）進捗報告

下関港新港地区（長州出島）

クルーズ岸壁（-12m）完成報告

国際クルーズ客船の受入れ状況

トピックス

国際クルーズ客船入港 in あるかぼーと

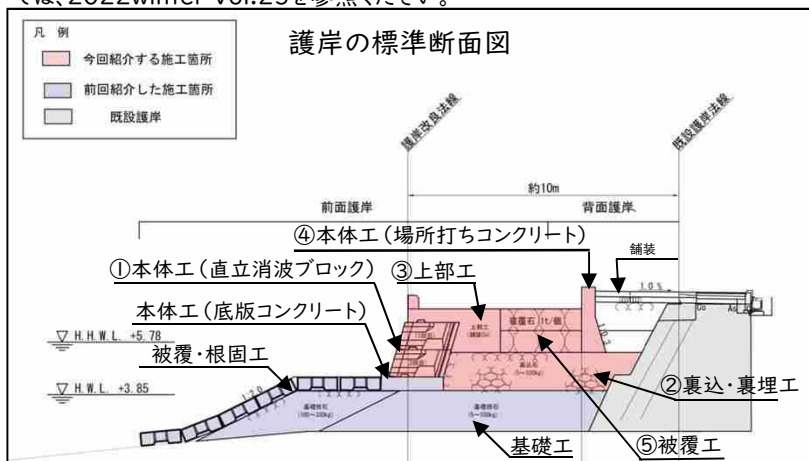


下関港海岸

7工区(黒門地区)進捗報告

7工区(黒門地区)においては、令和4年7月より、約500m区間の護岸整備を進めております。現在、8工区(外浦地区)側から約200m区間の護岸の本体工、透水層となる被覆工を施工しております。底版コンクリート打設以降の作業内容について、紹介します。

※基礎工から底版コンクリート打設までの流れについては、2022winter Vol.25を参照ください。



【直立消波ブロック製作】

前面護岸の本体工は、消波機能を有するブロックを積んで形成した構造形式を採用しており、使用するブロックは、被覆ブロックと同様に、広いヤードを利用して製作し、トラックにて、現場に搬入します。



型枠組立
所定の形状となるように型枠を組み立てます。



コンクリート打設
型枠内にコンクリートを流し込みます。



直立消波ブロック完成
重さは、1個当たり2.8トン
コンクリートが固くなったなら型枠を外してヤード内に仮置きします。

【直立消波ブロック据付から被覆石投入】



①本体工 (ブロック据付)
トラックにて、運んできた直立消波ブロックをバックホウで吊り上げ据付けます。



②裏込・裏埋工 (雑石投入)
上部工、被覆工、本体工 (場所打ちコンクリート壁) を施工する高さまで雑石 (5~100kg/個程度) を投入します。



③上部工 (コンクリート打設)
型枠内 (上部工施工箇所) にコンクリートポンプ車にてコンクリートを流し込みます。



④本体工 (コンクリート打設)
上部工と同様にコンクリートポンプ車にてコンクリートを流し込みます。



⑤被覆工 (被覆石投入)
上部工と本体工の間にバックホウ等を使用して被覆石 (1トン/個程度) を敷き詰めます。



被覆石投入後の状況

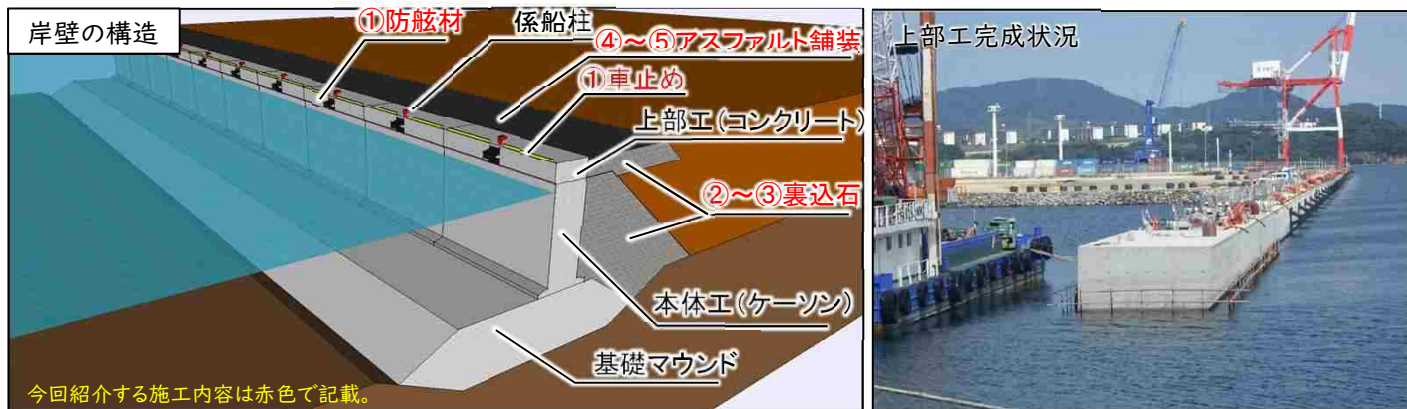
下関港新港地区 (長州出島)

クルーズ岸壁 (-12m) 完成報告

長州出島において、令和元年11月に工事着手以降、整備を進めておりましたクルーズ岸壁が、令和5年5月に完成しました。今回は、上部工完成以降の作業の流れを紹介します。

※上部工完成までの作業の流れは、過年度発行のPort Newsを参照ください。

基礎マウンド(基礎工):2019 winter Vol.13、本体工(ケーソン据付~上部工)2021summer Vol.19、2022summerVol.23



今回紹介する施工内容は赤色で記載。



船舶が係船するために必要な防舷材を取付けます。



ガット船を使用し、ケーソンの背後に雑石(5~100kg/個程度)を投入します。



雑石投入後、バックホウを使用して表面を平らに均します。



強固な道路を作るため、路盤材をモータグレーダで均等に敷均し、タイヤローラ、マカダムローラーにて締固めます。



舗装材をアスファルトフィニッシャーにて敷均し、タイヤローラ、振動ローラにて締固めます。



完成写真 (R5.5.17撮影)

国際クルーズ客船の受入れ状況

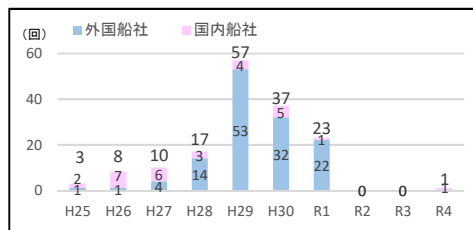
下関港のクルーズ客船受入れ状況は、平成29年に57回と急増して以降、多くのクルーズ客船が寄港していましたが、国際クルーズ客船は、令和2年より流行した新型コロナウイルス感染症の発生後、運航休止状態が続いていました。

令和4年11月に国際クルーズ運航のためのガイドラインが策定され、令和5年3月より、外国クルーズ社による運航も再開され、下関港においても、国際クルーズ客船の受入れが開始されています。

新型コロナウイルス感染症の分類が5類に見直され、長州出島において、クルーズ岸壁が供用されたことから、下関港への寄港がコロナ流行前以上に増加し、地域経済の活性化に寄与することが期待されます。



令和元年に寄港したコスタ・ベネチア



3 トピックス

国際クルーズ客船入港 in あるかぼーと

令和5年4月に国際クルーズ客船が寄港しました。下関港への国際クルーズ客船の寄港は、令和元年10月25日の「コスタ・ベネチア」以来で約3年7か月ぶりとなります。

寄港日：令和5年4月24日、28日

船名：スター・ブリーズ（初寄港）

船社：ウィンドスタークルーズ社
（アメリカ）

総トン数：12,995トン

全長：159m 乗客定員：312人

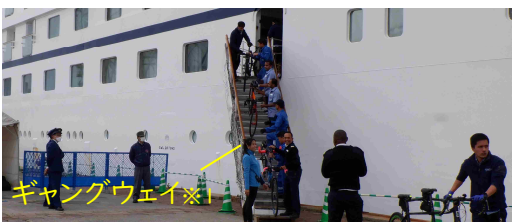


入港の様子



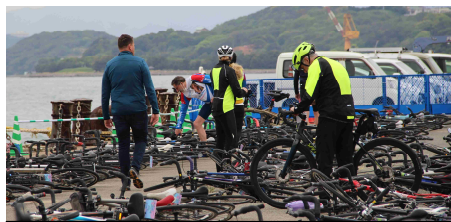
記念撮影（歓迎式典の様子）

乗客は、アメリカ人のサイクリング客がメインで、持参した自転車に乗って、下関の観光スポットである火の山公園、長府城下町、深坂自然の森などを巡っていました。

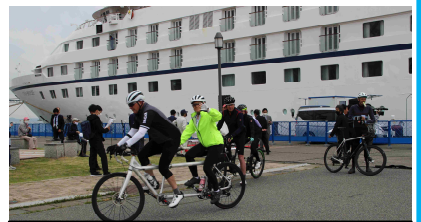


ギャングウェイ※1

クルー※2が並んで、自転車を運ぶ様子



乗客が自転車を探している様子



あるかぼーとから出発



サイクリングの様子①



サイクリングの様子②



サイクリングの様子③

※1 ギャングウェイ・・・乗船、下船するときに使われる架設式のタラップ（階段）。

※2 クルー・・・船で働いている船員で主に運航部門のスタッフの総称。

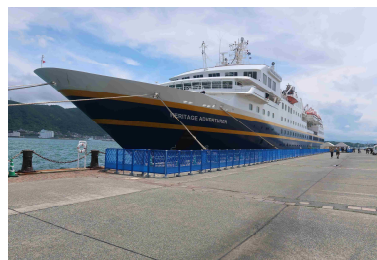
寄港日：令和5年6月11日

船名：ヘリテージアドベンチャラー（初寄港）

船社：ヘリテージエクスペディションズ
（ニュージーランド）

総トン数：8,378トン

全長：124m 乗客定員：140人



入港の様子



歓迎イベントの様子

歓迎式典は船内で行われ、乗客は、ツアーバスを利用して、関門地区周辺の観光スポット（唐戸市場、火の山公園、めかり公園や小倉城等）を巡っていました。



国土交通省 九州地方整備局
下関港湾事務所

〒750-0066 山口県下関市東大和町2丁目29-1
TEL (083) 266-3291
HPアドレス <https://www.pa.qsr.mlit.go.jp/shimonoseki/>

「海と港の総合窓口」
全国共通フリーダイヤル
0120-497-370
受付時間：9:30～12:00と13:00～17:00（土・日・祝を除く）

ご意見・ご感想をお聞かせください。

